

小田原市男女共同参画市民意識調査（令和7年1月実施）結果の他市等との比較分析について

1. 調査概要

小田原市男女共同参画市民意識調査報告書 P1 のとおり

2. 分析結果

【問1】 男女共同参画に関する言葉の認知度

実施機関	小田原市			国	神奈川県 (二一歳調査)※ R7は高校生対象に 調査	川崎市		平塚市	茅ヶ崎市	大和市
実施年度	R6	R1	H25	R1(R6なし)	H28(R3なし)	R5男性	R5女性	R4	R6	R4
育児休業・介護休暇制度	—	89.5	90.1			—	—	71.0	—	—
ドメスティック・バイオレンス	90.3	89.3	85.7	81.5	85.5	—	—	—	—	—
イクメン・イクジイ	—	87.3	78.2			—	—	88.7	—	—
男女雇用機会均等法	—	83.6	83.2	79.3		63.7	60.3		—	85.7
マタハラ・パタハラ	76.1	75.4	—			—	—	79.2 (マ タハラ)	—	—
ジェンダー	86.5	63.0	31.2	55.8		—	—	83.8	ジェン ダー平等 85.3	87.0
JKビジネス	—	51.6	—			—	—	—	—	—
ワーク・ライフ・バランス	57.3	51.3	43.9	43.1	50.7	—	—	50.8	—	64.4
男女共同参画社会	56.6	48.3	45.8	64.3	57.5	28.9	27.8	50.4	基本法64.8	—
デートDV	—	45.3	—	38.6	35.9	—	—	33.8	—	—
女性活躍推進法	41.8	40.3	—			—	—	(女性活 躍推進) 40.1	49.5	43.9
ダブルケア	36.0	27.8	—			—	—	—	—	—
ポジティブアクション	17.5	16.3	—	18.3	13.3	—	—	9.5	—	21.8
小田原市パートナーシップ制度	—	13.8	—			—	—	—	—	—
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	6.7	5.5	4.6			—	—	6.8	—	—
すべて知らない	—	0.7	—			—	—	—	—	—
アンコンシャスバイアス	14.0	—	—			—	—	11.5	—	—
DE&I	13.8	—	—			—	—	—	—	—
SDGs	73.3	—	—			—	—	—	—	—
無回答	4.6	5.4	2.3	0.8	4.2	—	—	—	—	—

- 「育休、介護休暇制度」「イクメン・イクジイ」「男女雇用機会均等法」については、前回、前々回とも高い水準で推移したため、今回は除外した。
- 「JKビジネス」「デートDV」は問25で、「小田原市パートナーシップ制度（現在はパートナーシップ宣誓制度）」は、問16で質問。
- 本市において、前回と比較可能な項目のすべてにおいて、前回の数値を上回る結果となった。
- 全体的に、他市等と比べほぼ同程度と言える。
- 新規項目の「アンコンシャスバイアス」「DE&I」の認知度は、低いものとなっている。

【問2】 各分野における男女の地位の平等感

	実施機関	小田原市			国	横浜市	川崎市		相模原市	平塚市	茅ヶ崎市	大和市
	実施年度	R6	R1	H25	R6	R6	R5 (男性)	R5 (女性)	R5	R4	R6	R4
家庭生活	男性の方が優遇	14.0	11.9	9.4	9.3	11.0	6.4	15.2	14.6	8.3	6.9	10.4
	どちらかといえば男性の方が優遇	39.9	42.6	29.2	51.4	30.4	33.8	45.7	49.5	35.5	40.2	34.8
	平等である	30.0	33.6	30.7	30.0	42.0	47.7	32.5	25.5	37.8	38.9	37.4
	どちらかといえば女性の方が優遇	11.1	7.9	18.2	7.8	5.4	8.5	3.9	6.9	13.2	6	7.2
	女性の方が優遇	2.1	1.1	5.6	1.2	2.9	1.5	0.4	2.6	3.4	1.3	1.7
	無回答	2.9	2.9	6.9	—	1.0	2.1	2.3	0.8	2.1	2.6	1.7
職場	男性の方が優遇	20.9	16.3	31.9	14.2	11.3	11.3	17.9	22.9	19	14.5	14.0
	どちらかといえば男性の方が優遇	43.4	49.7	42.0	49.6	29.6	41.5	44.0	43.2	42.8	37.4	36.4
	平等である	27.0	24.5	15.7	25.8	35.0	34.0	31.1	24.1	28.4	29.1	36.9
	どちらかといえば女性の方が優遇	3.6	3.9	2.6	8.1	8.1	7.7	3.1	5.6	2.5	2.8	5.7
	女性の方が優遇	1.1	1.0	0.5	1.1	7.1	1.3	0.2	1.8	1.1	1.3	1.0
	無回答	3.9	4.6	7.4	—	2.5	4.1	3.7	2.3	6.2	4.5	3.0
学校教育	男性の方が優遇	3.4	2.5	3	2.4	2.8	1.8	6.0	4.9	3.9	3	3.1
	どちらかといえば男性の方が優遇	13.0	15.4	9.1	19.5	6.9	16.8	20.8	18.1	22.2	13.2	15.6
	平等である	75.5	74.4	73.1	70.4	53.3	71.9	65.8	69.3	61	39.9	54.9
	どちらかといえば女性の方が優遇	2.7	3.5	5.1	5.6	4.2	3.9	1.0	4.3	2.6	2	2.9
	女性の方が優遇	0.6	0.5	1.2	0.4	1.3	1.0	0.4	0.9	0.2	0.6	1.3
	無回答	4.7	3.9	8.4	—	3.0	4.6	6.0	2.6	10.1	5.8	3.5
政治の場	男性の方が優遇	44.7	36.3	33.1	44.1	40.5	37.4	58.4	57.2	51.2	38.9	—
	どちらかといえば男性の方が優遇	41.0	46.0	40.4	43.8	35.1	43.6	29.4	32.8	35.5	37.4	—
	平等である	11.0	12.4	18.6	9.4	10.0	14.2	8.0	7.3	9	10.2	—
	どちらかといえば女性の方が優遇	1.1	1.8	0.4	1.9	0.8	1.5	0.0	0.8	0.1	1.1	—
	女性の方が優遇	0.1	0.2	0.1	0.3	1.4	0.8	0.6	0.7	0.1	1.1	—
	無回答	2.0	3.3	7.4	—	1.1	2.6	3.5	1.2	4.1	3.7	—
法律や制度上	男性の方が優遇	15.5	11.9	11.4	11.4	12.4	8.2	21.8	—	18.7	12.5	12.1
	どちらかといえば男性の方が優遇	38.9	37.6	31.1	38.9	27.5	34.5	41.2	—	41	36.5	34.3
	平等である	34.7	40.0	41.2	38.2	34.8	41.5	27.8	—	30	30.2	32.5
	どちらかといえば女性の方が優遇	5.7	5.8	6.7	8.9	6.1	10.8	4.9	—	4.5	3	4.7
	女性の方が優遇	1.4	0.9	1.5	1.9	3.5	2.3	0.2	—	0.6	1.7	0.3
	無回答	3.9	3.8	8.2	—	1.3	2.6	4.1	—	5.1	3	2.8
社会通念・慣習・	男性の方が優遇	27.2	25.4	23.8	21.2	23.2	20.6	35.4	29.9	27.6	23.1	24.8
	どちらかといえば男性の方が優遇	51.8	52.5	44.4	57.0	45.0	53.9	49.6	52.3	51	55.1	47.5
	平等である	15.6	17.3	21.1	16.3	17.1	16.2	10.1	12.5	15.9	10.6	14.3
	どちらかといえば女性の方が優遇	1.7	2.0	3.0	3.4	3.7	5.4	1.6	2.8	1.2	2.2	2.4
	女性の方が優遇	0.8	0.2	0.5	0.5	1.5	1.3	0.2	1	0.3	0.7	0.3
	無回答	2.9	2.6	7.2	—	1.3	2.6	3.1	1.4	4.1	2.8	2.6
地域活動（ボランティアなど）	男性の方が優遇	10.6	7.7	6.5	8.8	7.0	6.2	17.1	16	8.6	7.1	9.4
	どちらかといえば男性の方が優遇	35.9	34.7	25	38.2	17.2	29.6	40.3	42	32.7	22.5	37.6
	平等である	41.5	45.2	46.5	40.3	32.7	46.1	33.1	32.4	42.5	34.5	31.8
	どちらかといえば女性の方が優遇	8.0	7.7	11.9	9.3	5.2	11.6	4.3	5.8	10.5	6.3	3.5
	女性の方が優遇	0.9	1.5	2.4	1.2	1.0	1.0	0.2	1.2	1.2	0.9	1.7
	無回答	3.0	3.1	7.8	—	1.9	4.9	4.9	2.5	4.5	47	3.1
社会全体	男性の方が優遇	14.8	13.6	—	11.9	—	10.6	22.0	—	—	12.8	11.3
	どちらかといえば男性の方が優遇	62.4	61.1	—	62.8	—	57.7	58.6	—	—	60.5	54.7
	平等である	16.6	18.9	—	16.7	—	21.1	15.2	—	—	12.8	21.2
	どちらかといえば女性の方が優遇	3.0	4.2	—	6.1	—	5.9	1.4	—	—	2.8	3.5
	女性の方が優遇	1.1	0.2	—	0.7	—	1.8	0.2	—	—	1.3	1.1
	無回答	2.1	2.1	—	—	—	2.8	2.5	—	—	3.5	2.4

- 「学校教育」では、「平等である」と考える割合が高いが、そのほかでは「平等である」と感じている割合が低い、その傾向は前回（R1）前々回（H25）と比べても、また、他市等と比べても同

じょうな傾向である。。

- 「職場での平等感」は、前回（R1）の調査では前々回（H25）から 8.8 ポイント増加したが、今回（R6）では、さらに 2.5 ポイント増加した。しかし、その平等感は 27%であり、低い水準である。
- 「職場」「学校教育」以外では、他市等と比較して顕著に劣るものではないものの、前回は下回る結果となった。
- すべての分野で「平等である」と考える割合が、男性に比べ女性の方が低くなっている。（報告書 P5-7）

【問3】 女性が増える方が良いと思う役職

	実施機関	小田原市		相模原市	平塚市	大和市
	実施年度	R6	R1	R5	R4	R4
職場の管理職	そう思う	52.6	49.3	46.8	59.0	57.8
	どちらともいえない	41.8	44.6	43.0	17.5	24.7
	そう思わない	4.7	4.9	4.0	17.1	13.6
	無回答	0.9	1.2	6.2	6.4	3.9
市の審議会等の委員	そう思う	59.4	55.6	48.7	62.4	58.8
	どちらともいえない	35.5	40.0	41.7	10.2	26.9
	そう思わない	3.4	2.9	3.4	19.8	10.1
	無回答	1.7	1.5	6.3	7.5	4.3
市議会議員	そう思う	60.3	57.6	53.4	65.7	62.2
	どちらともいえない	34.8	37.9	37.5	11.1	24.5
	そう思わない	3.6	3.1	3.3	16.4	9.2
	無回答	1.3	1.4	5.9	6.8	4.1
自治会長	そう思う	41.1	37.0	32.3	41.1	34.6
	どちらともいえない	48.9	52.8	54.4	26.0	36.3
	そう思わない	8.5	8.9	8.2	26.0	24.3
	無回答	1.5	1.3	5.1	6.9	4.8
地域の防災リーダー	そう思う	29.9	25.9	20.1	—	
	どちらともいえない	51.3	53.5	58.1	—	
	そう思わない	17.5	19.4	15.2	—	
	無回答	1.4	1.1	6.6	—	
PTA会長	そう思う	35.5	36.3	33.6	46.6	36.4
	どちらともいえない	56.8	55.0	52.6	20.9	36.2
	そう思わない	6.1	7.4	8.9	25.6	22.8
	無回答	1.6	1.3	4.9	6.8	4.6

- 「PTA 会長」以外の項目では、前回（R1）に比べ「そう思う」割合が増加している。
- 全体的に他市等と同程度である。
- 参考（内閣府男女共同参画局 令和6年度値 ※令和7年度値は1月中旬に公表予定）
 - ・ 市役所管理職の女性割合は 9.7%
 - ・ 市の審議会等の女性委員の割合は、目標値の 40%以上 60%未満に対し、現在 34.0%である。（全国平均 30.4%）
 - ・ 小田原市議会議員の女性割合は、37.0%。（全国平均 20.3%）
 - ・ 自治会長の女性割合は、2.4%（全国平均 8%）
 - ・ 小田原Lエール認定企業内の女性管理職率は、●●%

【問4】 女性のリーダーが増えることによる影響

実施機関	小田原市		相模原市
実施年度	R6	R1	R5
女性の声が反映されやすくなる	76.6	78.0	49.5
男女問わず意欲ある人材が活躍できるようになる	71.6	71.3	62.6
多様な視点が加わることで、新たな価値や商品・サービスが創造される	74.0	71.1	56.6
男性の家事・育児・介護などへの参加が増える	58.6	59.1	33.0
保育・介護などのサービスの必要性が増大する	58.2	55.3	14.4
男女問わず仕事と家庭のバランスの取れた生活ができるようになる	45.0	43.4	—
人材・労働力の確保につながり、社会全体が活性化	44.1	41.8	36.9
労働時間の短縮など働き方の見直しが進む	38.9	39.7	25.1
今より仕事以外のことが優先され、業務に支障をきたすことが多くなる	11.9	14.1	6.5
男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	8.3	9.5	6.4
その他	2.1	3.5	2.1
無回答	1.5	0.7	4.4

- 全体的に前年度と大きく変化はなかった。
- 相模原市に比べると、多くの項目で小田原市の方が高くなっている。

【問5】 政策決定の場に女性の参画が少ない理由

実施機関	小田原市		相模原市
実施年度	R6	R1	R5
家事・育児・介護などで忙しいから	66.7	71.0	50.1
男性優遇の組織運営になっているから	66.8	64.3	67.1
男女の性別役割分担意識が強いから	49.2	56.5	46.3
家族の支援や協力が得られないから	45.5	47.3	19.9
女性側の積極性が十分でないから	29.1	26.4	20.0
女性はリーダー学習などの経験が十分でないから	15.0	19.7	12.9
その他	3.2	5.0	3.7
無回答	1.9	1.0	4.4

- 相模原市に比べ、小田原市では、前回（R1）今回（R6）ともに、「家族の支援や協力が得られないから」を選択する方が多く、今回の調査ではこの項目において相模原市より 25.6 ポイント高い。

【問6】 固定的性別役割分担意識についての考え

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に										
実施機関	小田原市			国	横浜市	川崎市		相模原市	平塚市	茅ヶ崎市
実施年度	R6	R1	H25	R6	R6	R5男性	R5女性	R5	R4	R6
賛成	2.8	3.7	5.5	4.5	4.9	5.7	3.3	3.7	3.1	1.9
どちらかといえば賛成	20.4	27.4	37.2	28.6	25.2	14.2	11.7	27.0	23.3	19.4
	23.2	31.1	42.7	33.1	30.1	19.9	15.0	30.7	26.4	21.3
どちらかといえば反対	32.0	30.7	24.8	37.7	27.6	34.0	25.9	36.1	28.8	39.3
反対	29.1	22.3	14.4	27.1	31.1	13.8	56.6	32.0	43.9	38.0
	61.1	53.0	39.2	64.8	58.7	47.8	82.5	68.1	72.7	77.3
わからない	14.9	12.5	15.8	—	10.7	—	—	—	—	—
無回答	0.8	3.3	2.4	2.1	0.4	2.3	2.5	1.2	0.9	1.5

- 固定的な性別役割分担に「反対（どちらかといえば反対を含む）」する考えの人は、前回（R1）と比較して、8.1 ポイント増えた。
- 「賛成（どちらかといえば賛成を含む）」という考えの人の割合は、前回（R1）と比べ 7.9 ポイント下がっているが、「わからない」も 15%程度ある。

【問7】 問6の理由

実施機関	小田原市			国	横浜市	相模原市
実施年度	R6※	R1（賛成 した理 由）	H25	R6（賛成 の理由）	R6（賛成 の理由）	R5
妻が家庭を守った方が子供の成長などにと って良いと思うから	22.0	65.2	65.7 (子供にさみしい思いをさせたくないから)	56	61.3	62.6
家事、育児、介護と両立しながら、妻が働 き続けることは大変だと思うから	45.1	64.8	63.4 (仕事と家事、育児の両立は難しいから)	61.3	54.3	64.2
夫が外で働いた方が、多くの収入を得られ ると思うから	18.1	41.2	7.1 (夫の給料で十分生活できるから) 27.1 (女性が働いても男性と同様に収入が得られるわけ ではないから)	39.3	36.2	43.2
自分の両親も役割分担をしていたから	13.9	16.1	21.1 (男性が女性を養うものだと思うから)	13	16.2	13.0
日本の伝統的な家族のあり方だと思うから	11.5	11.5	21.1 (男性に家事、育児のことまで求めるのは無理だか ら)	17.9	15.8	20.9
その他	19.7	12.7	10.1	—	8.7	10.2
無回答	16.7	1.8	1.1	0.6	0.4	—

※本市の令和6年度調査は、「そのように思った理由について」の設問

- 小田原市の前回（R1）及び、他市等の結果から、賛成する理由として「妻が家庭を守った方が子ども
の成長などによいと思う」「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変」と
いう回答が上位を占めている。

【問8】 SRHR（性と生殖に関する健康と権利）という考えについて

実施機関	小田原市	茅ヶ崎市
実施年度	R6	R6
賛成	60.0	93.3
反対	2.4	3.5
どちらともいえない	34.0	3.2

- 今回初めての設問。
- 茅ヶ崎市に比べ、「賛成」する割合が低く、「どちらともいえない」の割合が高くなっている。

【問9】 家庭の仕事の分担について

家事											
実施機関	小田原市						国	横浜市		平塚市	大和市
実施年度	R6	R1	H25	R6	R1	H25	R6	R6（家事育児介護の分担）		R4	R4
	現実			理想			現実	理想	現実	現実	現実
夫婦半々	24.7	13.3	12.5	67.9	67.3	53.5	外部サービスを使用せず 35.1 外部サービスを使用して 37.4	51.6（女性） 44.9（男性）	10.8（女性） 15.3（男性）	8.9	協力して行 う 82.2
主に妻	66.2	75.4	78.3	15.1	19.3	31.4	—	—	—	—	13.6
主に夫	1.5	2.1	1.3	0.4	0.5	0.3	—	—	—	—	0.6
その他の人	1.0	0.7	0.6	0.7	0.7	1.1	—	—	—	有料のサー ビスを利用 0.1	有料のサー ビスを利用 1.1
該当しない	0.9	0	0.6	3.1	0	2.4	—	—	—	—	—
無回答	5.7	8.5	6.8	12.7	12.3	11.4	—	—	—	2.7	1.5

育児・子育て											
実施機関	小田原市						国	横浜市		平塚市	大和市
実施年度	R6	R1	H25	R6	R1	H25	R6	R6		R4	R5
	現実			理想			現実	理想	現実	現実	現実
夫婦半々	15.1	10.6	12.4	65.4	68.1	59.2	外部サービスを使用せず 15.5 外部サービスを使用して 54.0	—	—	6.7	84.8
主に妻	52.8	61.9	53.2	13.9	14.4	20.4	—	—	—	—	9.5
主に夫	0.7	0.3	0.3	0.2	0.3	0.2	—	—	—	—	0.1
その他の人	0.3	0	0.4	0.4	0.2	0.5	—	—	—	0.1	0.6
該当しない	21.9	16.3	19.7	7.5	4.3	5.7	—	—	—	—	—
無回答	9.1	10.9	14.1	12.6	12.6	14	—	—	—	9.7	2.6

地域活動 実施機関	小田原市						国	横浜市		平塚市	大和市
実施年度	R6	R1	H25	R6	R1	H25	R6	R6		R4	R4
	現実			理想				理想	現実	現実	現実
夫婦半々	19.8	22.3	18.4	59.9	59.9	63.9	—	—	—	3.7	—
主に妻	26.6	31.0	35.8	3	3.6	2.8	—	—	—	—	—
主に夫	32.2	23.6	26.9	14.9	17.8	15.9	—	—	—	—	—
その他の人	2.2	1.9	1.6	2.4	1.6	1.5	—	—	—	0.1	—
該当しない	12.0	11.9	8.8	7.2	4.4	3.5	—	—	—	—	—
無回答	7.2	9.3	8.5	12.6	12.6	12.3	—	—	—	6.1	—

介護 実施機関	小田原市						国	横浜市		平塚市	大和市
実施年度	R6	R1	H25	R6	R1	H25	R6	R6		R4	R5
	現在			理想			現実	理想	現実	現実	現実
夫婦半々	15.6	10.5	14.1	58.6	67.5	64.8	外部サービスを使用せず 3.8 外部サービスを使用して 71.5	—	—	2.6	57.9
主に妻	23.5	28.9	22.3	4.5	4.5	3.9	—	—	—	—	2.5
主に夫	1.6	2.0	0.7	0.7	0.9	0.5	—	—	—	—	1.3
その他の人	2.7	1.3	1.9	9.8	4.1	6.3	—	—	—	2.3	29.6
該当しない	45.7	44.5	47.1	13	10.1	10.2	—	—	—	—	—
無回答	10.9	12.9	13.9	13.3	12.9	14.3	—	—	—	9.9	3.2

- 小田原市の調査結果のうち、「現実」の「夫婦半々」を見てみると、前回（R1）に比べ、今回（R6）では「地域活動」を除く、各項目「家事」「育児」「介護」で増加している。しかし、「夫婦半々」を理想とする姿には、まだまだ到達しておらず、現実と理想の乖離は大きい。

【問10】育休法・介護休法を取得する男性が少ない理由

実施機関	小田原市		
実施年度	R6	R1	H25
職場の理解を得られないから	17.6	45.7	26.1
職場の仲間に申し訳ないと思うから	8.3	11.8	7.5
昇進や昇給に影響する恐れがありから	4.5	6.5	8.7
休業後の職場復帰に不安があるから	7.2	8.5	11.2
仕事の量、責任が重いから	5.9	8.9	12.0
休業中は収入がなくなり、家計を維持できないから	6.8	10.1	14.0
女性の方が育児や介護に向いているから	4.2	4.1	4.3
その他	4.1	2.8	3.1
無回答	41.5	1.7	13.0

- 今回は「無回答」の割合が高かった。
- 全体の中では「職場の理解を得られないから」の割合が高く、男性が育児や介護休暇を取得するためには、職場の理解が大きく影響することが分かる。

【問11】男性の家事・育児・介護への参加についての考え

小田原市			小田原市	小田原市	県 (男性の参加を進めるために必要なこと)		相模原市	大和市 (男性の参加を進めるために必要なこと)
R6（男性が家事・育児・介護等に積極的に参加していくためには？）	R6	R1/H25（男性の家事・育児参加についての考え）	R1	H25	R3		R5	R4
男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすること	25.5	参加したくても労働環境により参加できない現状がある	65.2	61.9	上司・同僚の理解があること	55.9	72.0	47.4
男性が家事等に参加することに対する女性自身の抵抗感をなくすること	19.6	男性はもっと家事・育児参加に関心を持つべきである	62.3	48.7	休暇が取りやすくなること	36.6	20.8	—
家族間でコミュニケーションを図ること	61.7	男性に家事・育児参加の必要性について意識啓発を行うべきである	46.3	39.9	職場の人員配置に余裕ができること	25.0	56.9	58.6
男性が家事・育児等に参加することに対し、社会や職場の理解を深めること	68.6	男性がもつ「夫は外で働き」という社会通念を無くすべきである	39.1	30.7	昇進、昇給への悪影響がないこと	29.9	75.2（職場の理解・制度）	37.7
仕事以外の時間を快くもっているような仕組みづくり	38.1	男性は家事・育児参加にそれほど関心を持たなくてよい	2.6	2.5	—	—	13.6（ネットワークづくり）	51.2
その他	4.5	その他	4.1	3.0	残業が少なくなること	11.4	5.1	3.0
無回答	3.3	無回答	1.5	2.9	時間当たりの賃金が改善すること	5.1	1.5	3.3
					家事等は女性が行うべきという意識が変わること	30.3		ネットワークづくり 19.8
					時間の使い方の優先順位を変えること	5.1		スキルアップ 17.6
					配偶者が仕事を持つなど、家事等に取り組む必要性があること	4.8		13

- 設問について、自治体により、また、意識調査実施年度により違いがあるが、男性が積極的に育児や介護に参画するためには、総じて、「職場の理解」「家族間のコミュニケーション」が必要という考えの人の割合が高い。
- 他市等と比べて大きな傾向の違いはない。

【問12】女性が職業を持つことについての考え

実施機関	小田原市			国	県	茅ヶ崎市	大和市
実施年度	R6	R1	H25	R6	R3	R6	R4
女性は職業を持たない方がよい	0.3	0.7	0.7	3.9	0.3	0.4	1.3
結婚するまでは職業を持つ方がよい	1.7	5.6	3.5	4.8	0.4	1.7	3.1
子どもができるまでは職業を持ち続ける方がよい	4.2	7.2	6.5	6.5	1.3	6.3	7.1
結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方がよい	60.2	53.4	39.9	61.0	44.4	55.5	41.1
子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい	14.1	16.7	31.2	20.3	10.0	32.8	28.6
その他	7.3	9.6	7.9	1.7	18.5	—	12.1
わからない	4.7	6.2	5.3	1.7	9.8	—	—
無回答	7.6	0.7	5.0	—	2.9	3.4	6.3

- 小田原市の調査結果を見てみると、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方が良い」という考えは、前回（R1）も前々回（H25）より13.5ポイント高くなっていたが、今回（R6）も前回（R1）より、6.8ポイント高くなった。
- この値は、神奈川県、茅ヶ崎市、大和市より高いものとなっている。

【問13】女性が働き続けるために必要だと思うこと

実施機関	小田原市				国	県(※活躍 するた めに)	相模原市	大和市
実施年度	R6	R1	H25		R6	R3	R5	R4
保育所や介護施設などの整備	44.1	60.0	保育所、介護施設及びサポート体制の充実	60.7	保育や介護の施設やサービスの整備 34.8	54.0	71.7	—
育児休業・介護休業中の賃金や福利厚生などの充実	33.2	43.2	育児休業・介護休業中の賃金等の充実	26.5	休業制度や短時間勤務制度の整備 37.7	72.6	—	65.0
女性が働き続けることに対する職場の理解と協力	27.3	36.4	結婚、出産、育児、介護のための退職した従業員の再雇用制度の充実	46.9	—	77.4	66	74.3
フレックスタイム制や在宅勤務などの多様な働き方の推進	30.8	34.8	フレックスタイム制の導入	17.6	長時間勤務慣行の是正やテレワークの推進など 26.5	56.0	—	45.5
家事・育児支援サービス	23.9	30.4	—	—	—	—	21.2	54.7
女性が働き続けることに対する家族などの理解と協力	27.3	25.0	女性が働き続けることに対する家族などの理解と協力	30.4	—	—	—	家族間での家事分担 40.1
男性が家事に参加することへの理解・意識改革	27.1	19.9	男性の家事の分担など固定的な性別役割意識の改革	15.5	—	56.6	58.6	—
男女双方の長時間勤務の改善	14.2	18.9	総労働時間の短縮	12.6	—	—	39.6	—
昇進・賃金などの男女間格差の解消	33.2	12.0	昇進・賃金などの男女間格差の解消	15.9	—	—	—	—
働き続けることへの女性自身の意識改革	9.6	10.7	女性自身の自覚と意欲の向上	12.3	—	—	—	—
その他	2	0.9	その他	2.4	—	4.2	5.4	2.3
無回答	18.3	0.8	無回答	8	—	1.1	1.9	4.1
				女性の管理職等への登用の推進	3.9	自治会などの参加への理解 12.5 スキルアップへの支援 11.3		
				在宅勤務など多様な働き方の推進	20.4			
				(県) 企業のトップが女性の活躍の促進に積極的であること43.4 女性の仕事に適正に評価されること51.4 地域において就職相談等の再就職しやすい環境が整っていること32.9 キャリアアップにつながるような仕事を女性に任せること27.4 政策・方針決定過程の場に女性を増やすこと24.1 ロールモデルがいること17.7 スキルアップに向けた講座やセミナーがあること12.6				

- 女性が仕事を続けるために必要だと思う項目については、小田原市では「男性が家事に参加することへの理解、意識改革」が、27.1%で、前回（R1）に比べ今回（R6）7.1ポイント増加している。
- 傾向としては、いくつかの項目が偏りなく選択されており、他市等と同様の傾向である。

【問14】女性が管理職に就くことについて

実施機関	小田原市	県(※活躍 するため に)	横浜市(女性の登用を 進めるための課題)	相模原市(やりたく ない、あまりやりた くない理由)	大和市
実施年度	R6	R3	R6	R5	R4
女性の管理職比率を増加させるべき	25.4	51.9	昇進を望んでいない女性が多い 25.7	—	—
能力があれば管理職につけるべき	92.0	68.5	必要な知識や経験、判断力を有する女性がない 15.9	現時点では必要な知識や経験などが少ないから 63.3	65.0
子育て・介護などの役割を女性に求めると管理職を務めるのは難しい	28.6	72.5	すでに女性管理職が十分に職している 13.4	家事・育児・介護との両立が難しいから 36.3	74.3
管理職にはつかない方がよい	1.4	53.9	女性のキャリアアップについて、管理職の意欲や理解が足りない 23	管理職には男性がなった等が良い 9	45.5
特に何も思わない	3.9	—	職場がWLBに取り組んでいない 25.8	—	54.7
その他	1.8	—	職場が男性中心の組織風土 28.1	その他 23.1	家族間での家事分担40.1
わからない	1.6	51.9	男性の家事育児参画を進める後押しが不十分 19.9	—	—
無回答	0.7	33.0	女性のキャリア形成支援が不十分 22.3	無回答 1.9	—
			課題はない 15.4		
			その他 5.1		

- 小田原市では、「能力があれば管理職につけるべき」という考えが 92.0%と、突出して高い値となっており、他市等に比べても高い水準となっている。
- 横浜市では、「女性の登用を進めるための課題」という設問にしており、「職場が男性中心の組織風土」28.1%、「職場がワークライフバランスに取り組んでいない」25.8%、「昇進を望んでいない女性が多い」28.7%となっている。
- 大和市では、「子育て、介護などの役割を女性に求めると、管理職を務めるのは難しい」が 74.3%と最も高かった。

【問15】セクシュアル・マイノリティ（LGBT等）の認知度

実施機関	小田原市		神奈川県	平塚市	茅ヶ崎市
実施年度	R6	R1	R3	R4	R6
知っている	82.2	73.0	49.6	意味も＋ 言葉だけ 79.7	77.8
知らない	16.5	25.9	—	18.1	22.2
無回答	1.4	1.0	—	2.3	0.0

- 小田原市における「知っている」の割合では、前回（R1）より、9.2ポイント高くなった。
- また、他市等と比べても高い割合となっている。

【問16】小田原市パートナーシップ登録制度の認知度（令和7年度から「パートナーシップ宣誓制度に変更」）

実施機関	小田原市	平塚市
実施年度	R6	R4
知っている	16.6	9.8
聞いたことはあるが内容は知らない	24.0	—
知らない	58.6	88.2
無回答	0.8	2.0

※平塚市は、平塚市パートナーシップ宣誓制度についての設問

- 平塚市に比べ、認知度は6.8ポイント高い。

【問17】自身の性や性的指向について悩んだ経験と身近に悩みの有無

実施機関	小田原市		平塚市	大和市
実施年度	R6	R1	R4	R4
家族や知人が悩んでいる（家族や知人が悩んでいた）	6.8	4.6	—	4.9
自分自身が悩んでいる（自分自身が悩んでいた）	1.5	1.9	3.4	1.8
特に悩みはない（悩んでいる家族や知人はいない）	90.4	92.2	94.4	90.7
無回答	—	1.8	2.2	2.6

※平塚市は、自分自身のことについてのみ回答

- 小田原市では、悩みを抱えている人の割合が前回（R1）より、今回（R6）では、「家族や知人」で 2.2 ポイント、「自分自身」で 0.4 ポイントそれぞれ増加している。

【問18】 セクシュアル・マイノリティの方々にとって生活しづらいか

実施機関 実施年度	小田原市	
	R6	R1
思う	22.9	25.5
どちらかといえば思う	44.1	42.5
どちらかといえば思わない	18.6	18.6
思わない	11.3	6.7
無回答	3.1	6.7

- 小田原市の前回（R1）に比べ今回（R6）は、「生活しづらいとは思わない」と考える人割合が 4.6 ポイント増加している。
- また、「生活しづらいと思う」と考える都の割合は、2.6 ポイント減っている。

【問19】 セクシュアル・マイノリティの方々が生活しやすくするために必要な方策

実施機関	小田原市		大和市
実施年度	R6	R1	R4
学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を教える	55.8	59.4	54.9
法律等に、セクシュアル・マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する	21.2	30.6	—
働きやすい職場環境づくりの取り組みをする	28.9	28.5	38.2
生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校職員や行政職員への研修等を行う	13.8	25.1	—
相談窓口等を充実させ、周知する	10.7	19.3	29.8
行政が市民等へ周知啓発を行う	9.8	12.6	30.3
当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う	7.9	8.3	—
その他	3.9	3.2	4.5
わからない	6.4	2.6	—
無回答	14.2	0.3	4.0
・ パートナーシップ制度などの制度をつくる39.4 ・ 公共施設のトイレや更衣室に性的マイノリティの視点を入れる39.3 ・ 役所の申請書等の性別欄を配慮したものにする36.1			

- 小田原市では、「生活しやすくするために必要なこと」として、前回（R1）今回（R6）ともに、「学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を伝える」が1番多く、大和市でも同じ傾向であった。
- 次に多かったのが、前回（R1）では「法律等にセクシュアル・マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」が2番目に多かったが、今回（R6）では、「はたらきやすい職場環境づくりの取組をする」が2番目となった。

【問20】暴力と認識される行為について

実施機関	小田原市			横浜市	川崎市		相模原市	平塚市
実施年度	R6	R1	H25	R6	R5	R5	R5	R4
①交友関係や電話を細かく監視する								
暴力にあたる	45.1	29.7	24.3	50.8	64.2	73.3	66.0	82.2
暴力にあたる場合とそうでない場合もある	36.1	47.8	46.1	—	29.4	23.0	28.0	—
暴力にはあたらない	9.7	12.6	18.0	4.9	4.1	3.3	4.1	12.7
わからない	6.3	5.9	7.5	—	—	—	—	—
無回答	2.8	4.0	4.0	2.4	2.3	0.4	1.9	5.0
②何を言っても長期間無視し続ける								
暴力にあたる	60.9	50.2	45.6	62.0	66.8	72.2	60.7	83.3
暴力にあたる場合とそうでない場合もある	24.0	31.0	30.4	—	26.5	23.5	33.2	—
暴力にはあたらない	6.4	9.0	13.3	4.5	4.1	3.9	4.4	11.5
わからない	5.8	5.8	6.6	—	—	—	—	—
無回答	2.9	4.0	4.1	2.4	2.6	0.4	1.7	5.1
③大声でどなる								
暴力にあたる	73.1	64.4	58.9	—	—	—	68.5	81.3
暴力にあたる場合とそうでない場合もある	20.0	28.0	31.0	—	—	—	28.0	—
暴力にはあたらない	2.1	2.2	4.7	—	—	—	1.6	14.0
わからない	2.5	1.9	1.8	—	—	—	—	—
無回答	2.3	3.6	3.6	—	—	—	1.8	4.8
④なぐるふりをして、おどす								
暴力にあたる	82.4	78.1	72.0	58.4	70.9	78.4	79.7	—
暴力にあたる場合とそうでない場合もある	11.8	14.6	19.4	—	24.0	19.5	17.4	—
暴力にはあたらない	1.4	1.5	3.0	1.4	3.1	1.0	1.3	—
わからない	2.0	2.2	1.9	—	—	—	—	—
無回答	2.5	3.6	3.7	1.9	2.1	1.0	1.6	—
⑤性的な行為を強要する								
暴力にあたる	83.2	79.7	72.2	84.1	89.7	84.0	89.3	92.7
暴力にあたる場合とそうでない場合もある	10.3	12.9	17.8	—	7.5	4.9	8.3	—
暴力にはあたらない	0.9	1.3	2.6	1.0	1.0	0.6	0.5	2.3
わからない	3.2	2.2	3.4	—	—	—	—	—
無回答	2.3	3.9	3.9	2.1	1.8	0.4	1.9	5.0

実施機関	小田原市			横浜市	川崎市		相模原市	平塚市
実施年度	R6	R1	H25	R6	R5	R5	R5	R4
⑥平手で打つ								
暴力にあたる	91.7	89.3	87.9	94.5	82.5	85.6	83.4	92.9
暴力にあたる場合とそうでない場合もある	5.0	6.3	7.6	—	14.7	13.6	14.6	—
暴力にはあたらない	0.2	0.3	0.5	0.2	1.5	0.0	0.4	2.5
わからない	1.0	0.7	0.3	—	—	—	—	—
無回答	2.1	3.5	3.6	1.7	1.3	0.8	1.6	4.6
⑦足でける								
暴力にあたる	94.6	92.1	91.9	—	87.9	89.9	90.7	—
暴力にあたる場合とそうでない場合もある	2.2	3.6	4.2	—	9.3	9.5	7.2	—
暴力にはあたらない	0.1	0.2	0.2	—	0.8	0.2	0.4	—
わからない	1.0	0.6	0.4	—	—	—	—	—
無回答	2.1	3.6	3.3	—	2.1	0.4	1.6	—
⑧刃物などを突きつけて、おどす								
暴力にあたる	96.1	94.3	94.5	—	94.3	98.8	—	—
暴力にあたる場合とそうでない場合もある	0.6	1.4	1.6	—	2.8	0.8	—	—
暴力にはあたらない	0.2	0.2	0.3	—	0.8	0.0	—	—
わからない	0.9	0.7	0.5	—	—	—	—	—
無回答	2.3	3.4	3.1	—	2.1	0.4	—	—
⑨生活費を渡さない								
暴力にあたる	67.7	61.2	57.7	69.3	79.1	87.4	77.2	87.2
暴力にあたる場合とそうでない場合もある	21.4	25.8	23.8	—	16.0	10.1	18.4	—
暴力にはあたらない	4.1	3.8	7.4	3.1	2.8	21.0	2.3	7.6
わからない	4.6	5.7	6.9	—	—	—	—	—
無回答	2.3	3.5	4.2	2.2	2.1	0.4	2.1	5.2

- 小田原市では、前回（R1）より今回（R6）の調査で、すべての項目を「暴力にあたる」と回答した割合が増加している。
- 「交友関係や電話を細かく監視する」「何を言っても長期間無視し続ける」など精神的な暴力について、また「生活費を渡さない」という経済的な暴力については、他市等に比べ「暴力にあたる」と回答した割合が低くなっている。

【問21】上記①～⑨のような暴力を受けた経験

実施機関	小田原市			川崎市		相模原市
実施年度	R6	R1	H25	R5	R5	R5
経験がある	15.8	16.3	17.9	18.4	27.0	16.5
経験はない	83.1	80.0	78.6	75.0	69.1	81.1
無回答	1.0	3.7	3.4	6.6	3.8	1.8

- 暴力の経験について、川崎市、相模原市と比較して差はない。
- 小田原市では、「経験がある」と回答している人は、前々回（H25）、前回（R1）から徐々に減少している。

【問22】相談の有無

実施機関	小田原市		横浜市	相模原市	平塚市
実施年度	R6	R1	R6	R5	R4
相談した	28.3	28.2	相談しようと思った 74.4	34.0	23.7
相談しなかった（相談できなかった）	71.1	71.0	相談しようと思わなかった 22.7	65.6	7.0+60.0
無回答	0.7	0.6	2.9	0.5	9.3

- 小田原市では、前回（R1）と比べて、相談した割合、相談しなかった（できなかった）割合に変化はなかった。
- 相談の有無について、他市等と比較して差はない。

【問23】相談先

実施機関	小田原市		横浜市	川崎市		相模原市	平塚市	大和市
実施年度	R6	R1	R6	R5	R5	R5	R4	R4
家族・親戚	69.8	79.6	48.5	17.0	28.7	51.4	56.3	50.8
友人・知人・同僚	51.2	63.3	51.4	13.2	27.8	56.9	53.1	65.1
弁護士・警察・医師・カウンセラーなど	30.2	18.4	—	—	—	司法4.2 警察6.9	6.3+6.3	医師・カウンセラー11.1
市や県の相談窓口	7.0	12.2	DV相談支援センター28.6	0.0	1.9	国1.4 県6.9 市4.2	6.3	17.5
民間の相談窓口	4.7	4.1	9.4	3.8	7.4	4.2	0.0	1.6
同じような経験をした人	2.3	2.0	—	—	—	—	6.3	11.1
その他	4.7	0.0	—	—	—	6.9	7.8	3.2
無回答	2.3	—	—	—	—	—	—	—

- 小田原市において、一番多い相談先として「家族・親戚」が、前回（R1）今回（R6）ともに一番多かった。他市等の傾向と違いはない。
- 小田原市の今回（R6）の調査では、「弁護士、警察、医師、カウンセラーなど」を選択した人が、11.8 ポイント増加している。
- 小田原市では、市や県の相談窓口を相談窓口と考える人の割合が、5.2 ポイント減少している。

【問 2 4】相談しなかった理由

実施機関	小田原市		国	横浜市	川崎市		相模原市	平塚市
実施年度	R6	R1	R6	R6	R5男性	R5女性	R5	R4
自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから	34.3	49.6	22.3	—	8.3	26.9	33.8	20.4
相談するほどのことではないと思ったから	31.5	44.7	58.2	26.3	44.4	34.6	35.3	58.6
相談しても無駄だと思ったから	36.1	43.1	22.3	28.8	52.8	71.2	37.4	26.0
自分にも悪いところがあると思ったから	33.3	41.5	34.3	13.8	33.3	13.5	29.5	28.7
相談するのが恥ずかしかったから	9.3	20.3	16.0	14.8	8.3	13.5	11.5	13.8
だれ（どこ）に相談したらよいか分からなかったから	18.5	17.9	6.0	34.0	13.9	7.7	15.8	8.8
他人に迷惑をかけたくなかったから	13.0	17.9	5.7	13.6	11.1	7.7	11.5	7.7
世間体が悪いから	0.9	13.8	5.7	6.4	5.6	1.9	9.4	—
相談したことが分かったと仕返しされと思ったから	9.3	10.6	0.9	9.8	0.0	1.9	5.8	5.0
そのことについて思い出したくなかったから	4.6	6.5	5.3	6.2	5.6	19.2	—	—
その他	5.6	8.9	6.3	15.9	2.8	3.8	4.3	11.0
無回答	1.9	0.8	0.9	5.2	—	—	—	5.5

- 選択した項目としては、他市等と傾向に違いはなかった。
- 小田原市、横浜市、川崎市、相模原市で「相談しても無駄だと思ったから」の割合が一番高かった。

【問25】若年層を対象とした暴力の認知度

実施機関	小田原市
実施年度	R6
①悪質ホストクラブ被害	
知っている	62.6
聞いたことはある	25.4
わからない	8.9
無回答	3.1
②SNS性被害	
知っている	61.6
聞いたことはある	27.6
わからない	7.6
無回答	3.2
③デートレイプドラッグ	
知っている	41.0
聞いたことはある	30.3
わからない	24.3
無回答	4.4
④デートDV	
知っている	44.3
聞いたことはある	26.4
わからない	24.6
無回答	4.8
⑤JKビジネス	
知っている	44.7
聞いたことはある	27.3
わからない	23.4
無回答	4.6

- どの言葉についても、認知度は高いが、「知っている」「聞いたことがある」を合わせて、「SNS 性被害」が一番認知度が高く、「デート DV」が一番低かった。
- 前回（R1）の「男女共同参画に関する言葉の認知度」での回答では、「デート DV」45.3%、「JK ビジネス」51.6%であり、今回（R6）と比較しても差はない。

【問26】DV被害防止に必要なこと

実施機関	小田原市		川崎市	
実施年度	R6	R1	R5男性	R5女性
被害者のための相談機関の整備	29.6	38.1	60.8	62.1
暴力を防止するための教育や啓発の充実	14.3	20.9	55.4	65.6
加害者に対する教育 (罰則強化)	44.5	18.9	57.7	57.8
男女間の経済的、社会的格差の解消	10.1	12.0	39.4	51.2
テレビ、雑誌、インターネット、マンガなどにおける 暴力的な情報の規制	8.5	7.8	24.5	34.0
その他	1.6	3.1	7.7	5.6
有効な手段はない	4.1	0.8	—	—
無回答	15.9	2.5	—	—

- 「DV被害防止に必要なこと」として、川崎市では必要なこととして一番多かったのが、男性では「被害者のための相談機関の整備」60.8%、女性では「暴力を防止するための教育や啓発の充実」65.6%であったが、小田原市では、「加害者に対する教育（罰則強化）」が44.5%で一番多かった。
- また、川崎市の女性では「男女間の経済的、社会的格差の解消」と回答した割合が51.2%であったが、同じ項目について小田原市では、10.1%であった。

【問27】ハラスメントについての認知度

実施機関	小田原市		
実施年度	R6	R1	H25
①職場や公共の場での性的な冗談			
セクハラにあたる	46.9	38.0	32.6
セクハラにあたる場合とそうでない場合もある	44.9	51.6	54.3
セクハラにはあたらない	2.4	4.8	6.5
わからない	2.4	2.7	2.5
無回答	3.4	2.8	4.1
②職場や公共の場での水着やヌードのポスター			
セクハラにあたる	54.3	34.1	32.3
セクハラにあたる場合とそうでない場合もある	33.5	43.2	44.1
セクハラにはあたらない	4.1	14.3	14.8
わからない	4.4	5.6	4.6
無回答	3.8	2.8	4.2
③「女（男）のくせに」など差別的な言葉			
セクハラにあたる	53.2	47.1	38.0
セクハラにあたる場合とそうでない場合もある	32.8	38.2	38.0
セクハラにはあたらない	6.8	8.4	13.8
わからない	3.6	3.5	5.6
無回答	3.5	2.8	4.5
④不必要に身体をさわること			
セクハラにあたる	86.9	85.2	86.0
セクハラにあたる場合とそうでない場合もある	9.4	11.0	9.3
セクハラにはあたらない	0.3	0.4	0.5
わからない	0.6	0.8	0.6
無回答	2.8	2.6	3.6
⑤結婚、出産などプライベートなことをたびたび聞くこと			
セクハラにあたる	41.6	37.7	33.6
セクハラにあたる場合とそうでない場合もある	46.0	48.8	47.6
セクハラにはあたらない	6.5	7.0	11.4
わからない	2.5	3.9	3.0
無回答	3.4	2.6	4.3
⑥容姿について繰り返し言うこと			
セクハラにあたる	62.7	57.4	54.1
セクハラにあたる場合とそうでない場合もある	28.8	33.6	34.9
セクハラにはあたらない	2.0	3.6	3.8
わからない	3.2	3.1	3.2
無回答	3.3	2.4	3.9

- すべての項目で、「ハラスメントにあたる」と回答する割合が増加した。
- 特に「職場や公共の場での水着やヌードのポスター」については、「セクハラにあたる」と回答した割合が前回（R1）に比べ今回（R6）は20.2ポイント増加した。

【問28】ハラスメントの経験

実施機関	小田原市			横浜市	相模原市
実施年度	R6	R1	H25	R6	R5
	職場などで（直近5年以内）	該当全て（直近5年以内）	セクハラのみ（期間指定なし）	過去3年	該当全て（期間指定なし）
モラハラ	17.3	17.2	—	—	—
パワハラ	12.7	11.4	28.5	—	—
セクハラ	3.1	2.0	—	セクハラ・マタハラ 9.4	13.2
マタハラ・パタハラ	1.3	1.2	—		—
その他	3.0	1.2	—	—	3.2
受けていない（受けたかどうか分からない）	65.1	71.4	66.8	—	—
無回答	8.3	4.2	4.7	—	7.8

- 小田原市において、前回（R1）と今回（R6）では大きな変化はなかった。

【問29】困難な問題についての認知度

実施機関	小田原市
実施年度	R6
配偶者・パートナー・恋人からの暴力・暴言	15.8
上記意義の家族（子・きょうだい・祖父母等）からの暴力	5.4
家族関係が良好でない	17
性的な被害や問題	4.2
仕事が不安定	13.3
孤立・孤独を感じている	9.6
経済的困窮	13.6
その他	1.3
聞いたことはない	57.1
無回答	5.4

- 地方自治体に「困難な問題を抱える女性への支援のための必要な施策」が義務付けられたが、女性であることで困難な問題（性被害、家庭問題、生活困窮等）についての認知度は、全体的に低い。

【問30】 困難女性相談機関の認知度

実施機関	小田原市
実施年度	R6
市の女性相談	26.5
県の女性相談	15.1
かながわ女性の不安・困りごと相談室	8.4
かながわ犯罪被害者サポートセンター	7.6
かながわ性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター 「かならいん」	3.8
妊娠SOSかながわ	7.8
知らない	61.6
無回答	4.6

<参考>

横浜市	横浜市
○社会全体で支援ができているか	○困難女性の相談窓口の認知度
そう思う6.5	区役所35.4
どちらかと言えばそう思う11.7	男女センター7.2
どちらともいえない22.2	女相5.5
どちらかと言えばそう思わない26.6	女性の不安・困りごと相談室2.2
そう思わない17.3	民間カウンセラー・シェルター13.0
わからない13.8	相談できる窓口はない54.2
無回答1.8	無回答2.7

- 女性であることで困難な問題（性被害、家庭問題、生活困窮等）についての認知度についても低いという結果が出ているため（問29）、相談機関についての認知度も併せて低い。
- 横浜市の結果からも、まだまだ認知度は高くないことが分かる。

【問 3 1】男女共同参画社会に関する行政への要望について

実施機関	小田原市			国	神奈川県	横浜市	川崎市		相模原市	平塚市
実施年度	R6	R1	H25	R6	R3	R6	R5男性	R5女性	R5	R4
仕事や子育て・介護を両立するために必要なサービスの充実	62.1	66.9	77.7	62.7	66.1		—	—	55.8	48.8
労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める	29.4	42.5	42.1	51.0	61.5	60.6	—	—	40.7	49.3
出産、育児や介護などにより離職した女性（人）に対する再就職支援	31.7	41.8	37.5	58.6	56.6	62.7	—	—	45.9	34.5
学校などで男女共同参画に関する意識啓発を行う（学習機会の充実）	21.9	24.6	17.5	—	24.3		53.4	62.6	—	18.3/19.5
DVやセクハラに関する相談窓口や被害者のための支援の充実	16.7	23.4	34.7	32.4	24.4		43.3	45.3	8.2	12.6
ひとり親家庭の自立支援	24.7	19.8	23.9	—	—	—	—	—	19.4	—
審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	12.6	17.3	9.4	38.0	30.1	—	—	—	—	13.7
女性に対する能力開発・職業訓練・就職に関する情報提供などの充実	11.5	14.6	再掲) 37.5	—	—	—	—	—	—	10.5
DVやセクハラなどの人権侵害を根絶するための啓発活動を行う	9.0	12.2	13.7	—	—	—	—	—	—	—
男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	11.7	10.3	—	17.6	—	—	—	—	—	—
男女共同参画に関する講座や講演会の開催	5.4	7.5	—	25.0	—	—	31.7	31.3	6.6	10.4
その他	2.2	1.8	2.1	—	2.5	—	6.2	5.1	4.6	1.8
無回答	11.7	2.5	6.1	1.0	1.5	—	—	—	0.6	6.5

- 項目に共通項がある「国」「県」「相模原市」「平塚市」において、上位3項目は、小田原市の上位3項目と同じであった。
- そのほか、小田原市では、今回（R6）の調査では、「ひとり親家庭の自立支援」が24.7%と4番目に多かった。